



新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。



昨年は、お客様、皆様より一方ならぬご厚情を頂き、誠にありがとうございました。



一昨年末、先代中村利明が他界し、一年が経過しました。我々事務所も当初、戸惑うこともありましたが、社員全員一丸となってお客様企業の為に全力投球でひたすら前を向いて精進してまいりました。ここまで来れたのは、お客様企業の皆様の温かいご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

さて本年は何といても10月からの消費税率10%への引上げと軽減税率制度の導入です。悠長に構えていて直前になってバタバタするようなことのないように早目の準備を進めてまいります。主だったことは、

(1) 税率の引上げと軽減税率制度の導入

10%に引上げられると同時に「酒類と外食を除く食品」と「新聞」に8%の軽減税率が導入されます。

(2) 区分記載請求書等保存方式

31.10.1 から 35.9.30 までの間は税率ごとに区分して経理する方法として「区分記載請求書等保存方式」が導入されます。(税率ごとの区分が困難な事業者のために特例も設けられます)

消費税に関する疑問は担当職員までご質問ください。

創業以来、私たち中村会計では、五つの信条をかかげて仕事に打ち込んでまいりました。

昨年来、取り組んでいる働き方改革にもスポーツ選手のそのように個人の心構えと時間の使い方、大切さに深い意識をもって五つの信条を極めていきたいと思っております。

五つの信条

- 一．私達は礼節を大切にします
- 一．私達はおお客様の発展を願い何事も全力投球でやりとげます
- 一．私達は他人にやさしく自己に厳しく自己研鑽に励みます
- 一．私達は自己の可能性を信じ不断の努力でこの厳しい社会を勝ち抜きます
- 一．私達は常に租税正義を重んじ社会につくします

それでは、本年も相変わらぬお付き合いを賜りますようお願い申し上げます。
平穩無事を祈りつつ・・・。

2019元旦
中村 健





予算のすすめ

新春という時節は、「今年はどうしたいな」とか、「こうなると良いな」という心持ちになるものです。是非、事業も成長させて、より多くの利益を生み、より強い財務体質を築きたいものです。

ところで、私達のように会計事務所という立場で永きにわたって沢山の企業様と苦楽を共にしてまいりますと、一つの共通法則を感じます。それは、目標を持つ社長と持たない社長とでは、成長のスピードが違う、ということです。そして、社長の夢に「日付」を入れたものを「経営計画」と呼び、さらに「金額」を入れたものを「予算」と呼びます。

夢に早く近づく社長は、会社の経営成績を早く知ろうとし、自ら立てた予算と実績の差異を認識し、そのギャップを埋めるため次の打ち手を考え、その打ち手を具体的な行動に移してゆきます。

散歩のついでに富士山に登った人はいません。富士山に登ろうと思えば、時期を図り、装備を用意しつつ、しかるべきトレーニングをし、コンディション作りをし、最後に当日のタイムスケジュールをたてることでしょう。さもないと命を落としかねません。

企業経営も同じです。まず、富士山にあたる経営上の夢を持ちましょう。そしてそれに日付と金額を入れましょう。それを5カ年計画に表し、それを単年度予算に落とし込みます。現状は一旦横に置いておいて、夢には妥協しないことが大切です。その夢から全体の期間を見渡して、一年刻みに到達目標を決めてゆくのです。私の夢は5年後にはこういう会社を築くことなのだから、1年後にはせめてこれぐらいのところまで行っておかないとなあ、2年目にはこれぐらいのところまで、、、というふうに作ってゆきます。

このやり方の方が、現状がこうだから1年後にはこれぐらいしか行かないだろうなあ、2年後にはこれぐらいしか、、、と5年積上げてゆく場合よりも、同じ5年でたどり着くところがより高くなります。

是非、社長の夢を語ってください。中村会計が経営計画作りのお手伝いをします。そして予算化し、予実対比の見られるデータをお届けします。



先代の言葉 『ダム経営』 中村会計便り平成21年新年号より

松下幸之助翁の著「指導者の条件」(PHP文庫)の中に「ダム経営」があり、その中で、「指導者はあらゆる面にダム経営を心がけることが大切である」と言われました。

河川の水を流し切りにせず、ダムを建設して水の多い時はこれを蓄え、乾期に放流して水量の調節をはかり、さらにそれを発電とか灌漑に利用する。そうした考え方は、国家の運営、企業の経営に応用できるものであり、それによって、その時々的情勢に左右されない堅実にして安定的な発展を生み出すことができるのです。

ダム経営とは、ある程度のゆとりを持つことです。企業の経営であれば、100の資金が必要な場合は110の資金を用意します。これが資金のダムです。あるいは設備は90%の稼働率で適正な採算がとれるようにして、10%の余裕を持つことによって、需要が急に増えても支障なく供給できるような設備面でのダムをつくる。さらに常に適量の在庫を持って、製品のダムとする。そういうことが、景気、不景気に左右されない安定経営を生むことになるのです。そして、こういうことをして行くためにはまず、指導者が「自分の心のうちに、いわば心のダムと言うものを築くことが肝心である」とも言われています。

この厳しい経済状況の中、生き残りをかけて経済戦争、お客様企業の皆様には、何としても勝ち抜いていただかなくてはなりません。その為に我々はできる得る限りの協力、努力をしてまいります。

平成最後の年、景気の先行きは不透明であり、決して油断できません。先代のこの言葉を常に思い返し、我々会計事務所職員もお客様のサポートに全力を尽くしていきます。

